



ニュースレター

2014（平成26）年1月31日 グリーフワークかがわ広報部

◆理事長メッセージ◆

新年によせて

あなたはどのような街に暮らしたいですか

今年は何の年です。幼いころ、荷車を牽いた馬が歩いてくるのを見るのが楽しみでした。私にとっての馬の原光景は、飛躍する馬ではなく、飾りをつけた馬でもなく、人といっしょに歩いていく姿です。いまではその風景はなくなってしまったけれども、私のなかで、心象としてくつきりと浮き上がってきます。毎日、同じ時刻に蹄の音を響かせて、夕暮れの街をゆっくりと歩いて行きました。「また、あしたね」と手を振りながら、その日の終わりを穏やかな安心感のなかで過ごせた思い出です。

1995年、阪神淡路大震災が起き、その後もいくつもの大規模災害があり、2011年には東日本大震災が起きました。そのたびに私たちは、危機から再生に向かうための課題は何かを学んだはずでした。しかし、私たちはほんとうに過去の経験から学ぼうとしてきているのでしょうか。昨年末に示された国のエネルギー基本計画案は、十分な検証と議論が尽くされているだろうか、なし崩し的に福島第一原発事故以前への回帰を目指してはいないだろうか。そのこと以前に、一つ間違えばすべてを破壊する兵器を生むエネルギー源を欲したのは我々自身ではなかったか。そのことを顧みることなく「原発反対か賛成か」という二者択一で問題の解決を図ろうとすることは、過去から学ぶどころか、そもそも私たちが引き起こしたともいえる大惨事をなかったことにして突き進む傲慢ともいえるやり方に見えてなりません。

デフレ脱却、景気回復、7年後の東京オリンピックに向けてという文字が躍る新聞を、空しさのような感覚を覚えながら眺めていましたが、社説や、生活・文化の欄、読者からの投稿欄を読むうちに、私たちの価値観をもう一度問い直そうとする記事が目にとまるようになりました。使い捨てを美德としてきたことを恥じ、何が真理であるか、世の中は気づき始めているという記事でした。学びとは、暮らしの中で情報への感度を高めておき、ふとしたときに感じる感動や疑問をたいせつにすることだと思えます。なにげない日常の一場面を採り上げた投稿欄や近所の人とのふれあいを綴った子どもたちの作文のなかに、社会のあるべき形が示されているように思えます。

一人ひとりの学びの姿勢は、私たちが暮らしたい地域社会の設計図を描き、ひいては、人々が求めている社会を守るために、政治的経済的圧力にも屈しない、厳格ともいえる目標の礎となるのではないのでしょうか。「ふつうの人びと」の心のなかにこそ、危機と向き合い再生の道を歩み始めるための種があり、それは決して侵されてはならない権利であると同時に、私たちは「釈然としないこと」をやり過ぎてはならない責任があるのだと思えます。

人は季節の移ろいを身体で感じ、風の流れや雲の形から天候を予想する力を得てきました。人の心の動きや意図を感じ取ろうとする力が磨かれてきました。その力を、デジタル化された大量の情報のおかげに眠らせてしまったのかもしれませんが。自分が、暮らしたい社会はどのような社会なのかを問い続けていくこと、そしてその実現のために、まず自分たちの感知力を信じ、考える力と発信できる力を動員し目標を追及し続けることが、将来への希望に繋がることだと思います。そうした取り組みは、決して一朝一夕に成果が測れるものではありません。時間を惜しまず、積み重ねていくこと以外に道はありません。人と人とのつながりのなかにグリーンワークという心の過程が行き交う地域づくりも、私たち一人ひとりの日常的に起きている喪失に伴う心の嘆きに耳を澄ませることから始まります。

グリーンワークかがわは、今年も一歩ずつ「地域でグリーンワークを」を目標に進んでまいります。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

2014年1月28日

グリーンワークかがわ
理事長 杉山洋子

グリーンワークかがわ会員から「私のおすすめの一冊」

「喪の途上にて」 野田正彰 著 岩波書店 1992年

この本は、副題が、大事故遺族の悲哀の研究 となっており、1985年、日航ジャンボ機の事故により、突然、かけがえのない人を失った遺族や関係者に取材し、悲哀がどのような過程を経るのか、また、社会化していくのか、精神科医である著者が事故後、雑誌「世界」に連載したものをとりまとめたものである。

この本の中で、著者は「今日の不幸の特徴は、効率を求めて慌ただしい動きを止めない日常の傍らに、ふと、その人だけの不幸が停滞していることにある。人々も、友人や、知人も、親族も、近隣も、地域社会も変わらぬ日常に生き、その人の悲しみのために時間を少しだけ止めようとはしない。遺族もまた、日常的な業務に多くの時間を奪われている。日常的業務が悲しみを紛らわすといわれるが、私は、それは現代の欺瞞だと思う。悲哀は日常の流れを断ち切って、全ての時間をしばし止めてこそ深く体験される。」と述べている。

この指摘は、20年たった今でも、現代社会及び喪の作業（グリーンワーク）に対する正鵠を得ている指摘だと思う。この本の中で、遺族は、大事故による大切な人の死という突然の事を受け止め、現実感を喪失しながらも、遺体を取り戻すことやその人が生きてきた意味を見つけ出すためなど、懸命に自分自身の喪の作業に取り組んできている。

今回、読みなおして改めて強く思ったのは、「かけがえのない人の突然の死からの立ち直りは、その人にとって壮絶な闘いを強いたものであったのだと」

グリーンワークかがわ副理事長 池島 邦夫

◆2014年1月12日 第59回 理事会開催◆

《報告事項》

1 新相談室転居について

2013年12月23日に転居が完了し事務処理等の進捗について報告があった。

2 2013年度ヘルプラインカウンセラー資格認定に係わる作業の進捗について

認定委員長から進捗状況について報告があった。資格認定面接は2月1日、2日に実施する。

《審議事項》

議題1 認定NPO法人取得に関するワーキング報告に関する事項

池島副理事長より第57回理事会の審議で提出された確認事項の調査結果について、認定NPO法人資格取得の条件⑧パブリックサポートテスト（PST）（当会は相対値基準）について、①分母、分子ともに実績判定期間である2か年の合算数値になっていなかったこと、②役員の寄付金額が除外されていたことから、役員の寄付金額の扱いについて県担当者に確認した結果を2月の理事会で報告することで了承された。

議題2 認定NPO法人取得申請に向けてのコンサルテーションに関する事項

杉山理事長より、認定NPO法人取得のためのコンサルテーションについて案が示され、開催は2014年4月27日（日）13:30～15:30、講師は清水博文税理士事務所清水博文氏、謝金は一般会計から40,000円（交通費込、税込）を支払うことで了承された。認定NPO取得申請にあたっては、総会での議決を必要とするため、2014年度年次総会に向けて、認定NPO法人取得申請のための準備を整えておくこと、そうした趣旨を踏まえコンサルテーションを受けることを確認した上で理事長が講師に依頼することで了承された。

議題3 GWK 将来ビジョン（ワーキンググループ）の中間報告に関する事項

池島副理事長より、NPO法人グリーンワークかがわのビジョンが提示された。①これからのGWKに求められるもの（課題）については、グリーンに関する相談支援の充実が中心であること。②安全、安心の場の提供については、対象と目的について修正意見があった。ビジョンと法人の年間計画との関係については、ビジョンは5年から10年のスパンを示す中で、ビジョンに沿った事業を理事会、総会等で年間計画として取り上げていくこと、ビジョンについては5月の年次総会で承認を受け、HPで公表していくこと等が議論された。以上から、2月の理事会に修正案を池島副理事長から提示することで了承された。

議題4 グリーンワークかがわ認定カウンセラーの指針に関する事項

現在はグリーンカウンセラーとヘルプラインカウンセラーの資格認定は別々になっているが、実際にはどちらの認定カウンセラーであっても相談事業に従事することができる。理事会は管理責任があり、活動の資質向上のためにも資格認定更新の要件やそのための指針が必要である。資格認定の更新に係る内容について情報収集し、時間をかけて検討していく必要があるとの議論がなされ、花岡理事により資格認定更新に係る指針の原案を作成することで了承された。

議題5 社会福祉法人高松市社会福祉協議会主催地域福祉フォーラムにおける活動報告依頼に関する事項

杉山理事長より、社会福祉法人高松市社会福祉協議会主催の地域福祉フォーラムに、パネリストとしてグリーンワークかがわに講師派遣依頼があり、1月9日(木)に依頼者側との面談を行なった説明があった。開催は2014年1月31日(金)、内容は、講演とパズルディスカッション、テーマは「自殺のない社会の実現に向けて」である。パネリストとして、当法人から塩田事務局長が出席すること、冊子頒布も可能なのでアシスタントを募集予定することで了承された。パネルディスカッションの進め方、コーディネーターの役割および事前打ち合わせ等について確認しておくことが了承された。

◆1月19日 第18回グリーンワークかがわ相談担当者会議開催◆

【報告事項】

1 12月分相談事業の実施状況報告

グループミーティング、ヘルプラインかがわ電話カウンセリング、自殺予防ホットラインかがわ各事業について報告があり、以下の項目について話し合った。

(1) 電話相談で担当者が急に来られなくなった時の対応について

電話による相談、対面型による相談いずれの場合も、時間的にも余裕を持ち相談に応じる態勢を整えておくことはカウンセラーの責務であることから、体調が悪い時は早めに判断しコーディネーターに連絡し調整を図ること、毎月最初のホットライン担当者がその月の担当者一覧を相談室に掲示しておき、カウンセラーがお互いに確認しやすい体制を整えることとした。

(2) グリーンカウンセリングの予約について

新たに開設したグリーンカウンセリングについて、12月は予約はなかったが1月には予約が入っている。

(3) ヘルプラインの問い合わせについて

問い合わせがあったとき、 Broschüreを送って連絡がない場合も、先方の事情があるので慎重にした方がよい。予約の成立を急ぐより、まず相手が知りたいことを説明する。

問い合わせとして対応した電話と「着信のみ」を区別して記録に残すこと、ニードがあるにもかかわらず相談予約が成立しない場合の背景について、情報があれば知っておく必要はある。

2 グリーンカウンセラーとヘルプラインカウンセラーの位置づけ(考え方)について理事会からの報告

第17回相談担当者会議での審議事項として理事会に意見具申したグリーンカウンセラーとヘルプラインカウンセラーの位置づけについて、理事会で指針をまとめていく方向であるとの報告があった。

3 高松市協働企画提案事業について

第17回相談担当者会議で提案のあったこのことについて、申請を終了した報告があった。

4 相談室の転居について

12月に相談室の転居を終えたことの報告があった。

【審議事項】

議題1 相談室のセキュリティについて

管理について、理事会での審議事項として挙げてほしいという意見で了承された。

議題2 ホットラインの2014年度の実施について

2014年度の実施について理事会の審議事項として提案し、古澤コーディネーターが理事会に出席して現状報告などを行うことで了承された。

議題3 相談に従事する人のメーリングリストについて

対面型相談が開始され、管理方法として相談従事者に限定したメーリングリストを作成してはどうかとの提案があり、管理者と協議することで了承された。

議題4 相談担当者の連絡方法について

連絡事項の詳細はメールを使わずに会議で報告すること、研修や行事案内はメーリングでの連絡とする。相談事業の内容については、毎月の相談担当者会議で共有することが最もよい。

◆2013年度第5回相談担当者研修のおしらせ◆

グリーンカウンセラー、ヘルプラインカウンセラーすべての方を対象としています。

日時：2014年2月16日（日）13：00～15：00

会場：高松市男女共同参画センター

事例提出：植村奈保美

スーパーバイザー：杉山洋子

編集後記

2014年最初のニュースレターです。今年から、「グリーンワークかがわ」の相談室を錦町のマンションで開始しています。担当者は各々が新たな気持ちで役割を果たそうと頑張っています。

今年はグリーンワークかがわにとって飛躍の年になると思います。皆が協力しあって頑張っているグリーンワークかがわ・皆様にとって良い一年となりますように・・・
(編集担当 植村)

今後の予定

2月9日（日）10時～11時30分	身近な人をなくした方のグループミーティング 場所：高松市男女共同参画センター
2月9日（日）13時30分～16時	第60回理事会 場所：高松市男女共同参画センター
2月16日（日）10時～11時30分	相談担当者会議 場所：高松市男女共同参画センター
2月16日（日）13時～15時	2013年度第5回相談担当者研修 場所：高松市男女共同参画センター